

第5回笠岡市総合計画審議会議事要点録

- 日 時：平成29年6月30日（金）13：30～17：00
- 場 所：中央公民館4階集会室
- 出席委員：17名
小林会長，大嶋副会長，浅野委員，遠藤委員，大山委員，藏本委員，齋藤（永）委員，齋藤（一）委員，谷川委員，玉置委員，鳴本委員，西村委員，長谷川委員，原田委員，東山委員，水野委員，三谷委員
- 欠席委員：1名（野本委員）
- 内 容：下記のとおり

1 議 事

■協議事項（1）第7次笠岡市総合計画の基本計画案について

- 資料に基づき，基本計画案について事務局から説明した後に質疑応答。

<委員意見の要旨>

「2-1 魅力的で快適に暮らせる都市形成」

委員： 主要な道路の沿線の利用されていない土地は農振地域が多いと思うが，それについて今後どうしていくのか。また，交通の便がいいところに都市機能を集約しようという考え方が基本にあるなら，新築住宅助成金についてその対策的な政策があるか。

建設産業部次長： 農振地域については見直ししているところである。定住促進については，都市計画法に関わる制度の緩和等を行いながら，笠岡市独自の考え方を持って進めたい。

委員： 高齢化社会に向かうに当たって，公共サービスの効率化を視野に入れた言葉を明記すれば良い。

建設産業部次長： ここでは都市機能や居住施設の誘導という表現をさせていただいている。

「1-1 企業誘致の推進と雇用創出」

委員： 篠坂インターが計画されている中で，住宅団地だけでなく企業誘致できる土地も計画的にやっていく必要があるのではないか。

建設部長： 先ほどの都市形成の項目とあわせて考えていかないといけない。2号バイパスあるいは篠坂ICの整備等により交通ネットワークが形成されることによって未

利用地の開発が促進されることをきっかけに、農振地域等の規制の見直しに向けて取り組んでいきたい。

委員：県の工業用地に数社が誘致されたが、何人の雇用が確保されたか。残った用地についても、雇用効果が高い良い企業の誘致を実行して欲しい。有効求人倍率は高いがミスマッチが起きている。

委員：別にトップセールスでなくても良いのではないか。

産業部長：市長に限らず職員も企業訪問しているので、記載を変更する。

「1-2 農業振興」

委員：農作物の付加価値を迫及する手段を持っているか。

産業部長：ふるさと納税の返礼品として、笠岡で採れたものを都会の方に食べていただくことを引き続きやっていきたい。差別化の手段としては、例えば牡蠣ガラで米作りをしている例などがある。

会長：かさおかブランド認定事業を主要事業に入れることを検討して欲しい。

委員：悪臭問題は6次の総合計画に記載していたか。

産業部長：記載はある。引き続き「1-6 干拓地農業の活性化」にも記載して取り組んでいく。

「1-3 商工業振興」

委員：事業所の数が約30年で半減していることは大きい問題である。また、ブランド認定を通じて売り上げが増えるよう支援することが、行政の力でできるか。もう少し言葉を変えたほうが良いのではないか。

商工観光課長：事業所を減らさないためには起業により新しい事業所を増やしたり、既存の事業者が廃業しないために承継していくことが必要で、少しでも成果として上がるよう取り組んでいる。ブランド認定については手法の1つであり、表現が限定的なので見直したい。

「1-4 水産業振興」

委員：指標について、目標値が実績値より上がっていないが、支援を行ってやっこの数字を維持できるということか。

産業部長：そのとおり。

委員：港湾整備を行う一方で実績が上がらないというのは、政策的に問題があるのではないか。

農政水産課長：抜本的な対策は難しいが、例えば近隣の漁業関係者が協力して、網目を大きくして小さい魚は逃がすなど自主的に取り組んでいる。また、アマモを増やすなどの地道な取組を行政も支援している。

「1-5 観光振興」

委員：産業連関表によると、観光に対しての効果が薄い産業構造になっている。産業のウィークポイントを克服する施策を。また対策は、島しょ部の観光にターゲットを絞って、若者による観光プランを確立させていただきたい。若い人の活用を明記していただきたい。

産業部長：キーポイントとして、島、そして若い人が笠岡を訪れるような対策を考えていきたい。

委員：島しょ部への宿泊者について、国内の人からは波の静かさ、海外の人からは幻想的なものを感じるという意見を聞く。良さをアピールすることに力を入れて欲しい。観光客数の目標値はもっと高く掲げなければ努力できないと考える。

産業部長：見直します。

委員：観光客数のうち、道の駅来場者数以外の数はどこを訪れた数か。

商工観光課長：カブトガニ博物館や竹喬美術館、各種イベント等への来客を積み上げた数字となっている。

会長：宿泊客数やそれに対する施策の記載がないが、観光客が市に落とすお金を考えれば検討すべき。

委員：体験型の観光を取り入れて欲しい。また、お土産を買う店が増えればよい。

委員：外国人向けのPRを。

「1-6 干拓地農業の活性化」

委員：「視察の受入れ件数」を指標にした意図は。

農政水産課長：干拓地で先進的な技術を導入した農家を積極的に発信して、見ていただきたいという意図。干拓地のPRにつなげていきたい。

委員：悪臭問題を解決しないと活性化はできない。

副市長：当初は牛の頭数を2,000頭で見込んでいたが、将来的には1万頭近くになると考えられる。堆肥化だけでは対処できないので新たな方策を考えていかないといけない。

委員：臭気について、市と事業者とどちらの責任か、そろそろ計画に文言として入れる必要があるのでは。

副市長：ヨーロッパでは事業者の責任であるとし、コンプライアンスを守らなければ補助金をカットすることでバランスを取っている。日本にはそういった制度がなく、市の責任も一定割合はあるので、農家と話し合いをしていかなければいけない。

「4-7 健全な下水道運営」

委員：下水道への接続はコストがかかることなどから合併処理槽を設置することが考えられるが、その辺りに関する記載は。

上下水道部長：「笠岡市下水道基本構想」が下水道と合併浄化槽とどちらが社会資本的に有利なのか決めていく計画。人口の動態を見ながら見直していきたい。

「4-8 消防体制の整備」

副会長：住宅用の火災報知機について、設置して10年以上経つのに1度もメンテナンス等がない。

予防課長：昨年度から維持管理についても消防団等と連携して、各地区でチラシを配ってもらっている。広報紙にもチラシを入れる予定。

委員：1万人当たりの出火率は管内か。

警防課長：出火率は出火件数を人口で割った値で、管内人口を使っている。

「4-9 地域防災の推進」

会長：防災士の人数については、総合指標にも達成目標の指標にも記載されているが。

危機管理部長：意図的に重複して掲載している。

「4-10 防犯・交通安全の環境づくり」

会長：ネット環境の犯罪に関する記載があっても良い。

政策部長：実際には消費生活相談の中でそういった相談も受けているので、記載できるかどうか検討する。

「4-11 廃棄物・環境保全」

委員：ごみ減量化の達成率を毎月広報紙に載せても良いのではないかと。

○第4回審議会での審議を受けて修正した項目について説明後、質疑応答。